

皮膚科

● スタッフ（2021年10月1日現在）

診療科長 原田 和俊
 医局長 伊藤 友章
 病棟医長 前 賢一郎
 外来医長 阿部 名美子

医師数 常勤 28名
 非常勤 19名

● 診療科の特徴

当科では年2回地域連携の会を開催し、近隣の開業医・総合病院の先生方と“顔の見える関係”を作り連携を行っております。当科の方針として国の政策に基づき“ふたり主治医制”を導入し、病状が落ち着いた患者様は、紹介医のもとで引き続き治療して頂いています。緊急を要する疾患は、常時対応しております。

- ①難治性皮膚疾患全般に対応
- ②皮膚癌の診断と手術、分子標的薬投与を中心とした集学的治療
- ③尋常性乾癬および掌蹠膿疱症に対する生物学的製剤を用いた治療
- ④自己免疫性水疱症の診断と治療
- ⑤膠原病、血管炎が原因の慢性皮膚潰瘍の治療
- ⑥アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤およびJAK阻害薬による全身療法
- ⑦円形脱毛症に対する、局所免疫療法などの治療と管理
- ⑧尋常性白斑の治療と管理
- ⑨色素性病変に対するレーザー治療
- ⑩遺伝性皮膚疾患の遺伝相談
- ⑪巻爪、陥入爪の治療
- ⑫重症慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤を用いた最新の治療

● 診療体制と実績

当科では、皮膚悪性腫瘍治療に力を入れており、悪性腫瘍手術件数は都内有数の症例数を誇ります。また、生物学的製剤治療を積極的に導入し、乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎などの各種疾患に投与しています。その他にも脱毛症・白斑・アレルギー・遺伝性疾患・水疱症など専門外来を開設しており、各分野の専門医師が対応しております。

1) 外来診療体制と実績

2021年度の当科外来実績は延べ患者数43101人、初診患者数3608人、1日平均患者数159.6人（初診患者134人、再診患者146.3人）でした。年間外来小手術件数は533件でした。悪性腫瘍通院患者数を表1に示します。

2) 入院診療体制と実績

当科入院加療はご紹介いただいた患者様を中心に最新のエビデンスに基づいて治療させていただいております。悪性腫瘍、重症感染症、乾癬、アトピー性皮膚炎、水疱症、膠原病など様々な疾患に対応します。また、小手術は循環器疾患や脳梗塞ガイドラインに沿って、抗凝固剤、抗血小板剤を中止せず実施し、短期入院手術も行っております。2021年度は入院患者数（図1）425名、

最も多い疾患群は悪性腫瘍、次いで感染症の順であり、悪性腫瘍の患者様が年々増加しております（表2）。悪性腫瘍の内訳（表3）は悪性黒色腫、基底細胞癌、有棘細胞癌が多いです。なお、良性腫瘍手術は、患者様の術後の痛みや出血を考慮し数日間の短期入院で行っています。2020年度より、土曜日に足底母斑や良性腫瘍の手術をはじめました。出血や痛みを伴いますので、週末は入院していただき、月曜日に退院していただくプランを作りました。患者様を御紹介いただけたら幸いです。

皮膚科外来悪性腫瘍患者数（継続患者を含む）（表1）

病名	2018	2019	2020	2021
有棘細胞癌	83	67	73	71
日光角化症	52	50	48	49
ボーエン病	28	23	27	28
基底細胞癌	110	81	75	93
乳房外パジェット病	21	25	22	26
エクリン汗孔癌	6	5	7	6
メルケル細胞癌	2	5	5	5
脂腺癌	3	5	4	3
悪性黒色腫	91	96	82	86
血管肉腫	5	4	8	6
隆起性皮膚線維肉腫	11	12	12	14
成人T細胞白血病リンパ腫	2	2	2	1
菌状息肉症	42	45	46	48
セザリ－症候群	0	0	0	0
転移性皮膚腫瘍	15	10	9	14

（表2）	感染症	悪性腫瘍	良性腫瘍	総数
2007	113	65	42	320
2008	79	82	56	302
2009	88	92	78	365
2010	87	95	72	393
2011	87	91	81	399
2012	99	107	90	432
2013	123	115	76	440
2014	109	157	99	492
2015	86	164	77	463
2016	114	159	135	540
2017	165	194	138	619
2018	104	178	96	484
2019	95	179	84	452
2020	91	138	81	391
2021	82	164	86	332

皮膚悪性腫瘍内訳（表3）

基底細胞癌	40
悪性黒色腫	56
ボーエン病	10
有棘細胞癌	26
隆起性皮膚線維肉腫	4
乳房外パジェット病	11
頭部血管肉腫	4
その他	13
計	164

